



平成 24 年 2 月 9 日

各 位

会社名 長野計器株式会社  
代表者名 代表取締役社長 依田 恵夫  
(コード番号 7715 東証第一部)  
問合せ先 取締役上席執行役員  
経営企画部長 眞島 政弘  
(電話番号 03-3776-5379)

### 特別損失の計上および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 24 年 3 月期第 3 四半期決算において、下記のとおり特別損失を計上いたしましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 23 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期通期の業績予想について修正を行いましたので、併せてお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 特別損失の計上の内容

連結子会社である S3C, Inc. (米国カリフォルニア州所在) は、平成 20 年 2 月に子会社(持株比率 80%)とし、長野計器グループの車載用圧力センサの製造、営業開拓、および圧力センサ素子の開発、並びに ASIC (特定用途向け I C) 開発を目的として事業推進してまいりました。

このたび、同社事業内容を研究開発型企业とすべく、製造機能を長野計器に移すことといたしました。

これにより、同社に対する投資および貸付金等の回収可能性について再評価した結果、会計基準に照らし、個別決算では同社株式を減損処理するとともに、同社に対する貸付金等に対し貸倒引当金繰入額を計上し、特別損失といたしました。また、連結決算では同社の株式を減損処理したことに伴い、同社に係るのれんの一括償却を実施し、特別損失といたしました。

なお、同社については、自動車産業における圧力センサの用途が今後とも拡大することが予想されることより、営業開拓面および圧力センサ素子と ASIC 開発を更に強化してまいります。

##### 2. 連結決算および個別決算に与える影響

###### (1) 連結決算

のれんの残高 1 億 57 百万円を一括償却し、特別損失といたしました。

この結果、平成 24 年 3 月期第 4 四半期以降はのれんの償却額の負担がなくなります。

###### (2) 個別決算

同社株式について関係会社株式評価損 3 億 99 百万円を特別損失に計上いたしました。

また、同社に対する貸付金等に対する貸倒引当金繰入額 11 億 56 百万円を計上し、特別損失といたしました。

なお、これらの処理については、連結決算に影響ありません。

### 3. 平成 24 年 3 月期通期業績予想の修正

#### (1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 23 年 5 月 13 日発表)	百万円 41,100	百万円 1,630	百万円 1,540	百万円 1,020	円 銭 49.56
今回発表実績値 (B)	39,240	1,280	910	150	7.29
増減額 (B-A)	△1,860	△350	△630	△870	—
増減率(%)	△4.5	△21.5	△40.9	△85.3	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	38,115	1,410	1,078	656	34.27

#### (2) 個別

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 23 年 5 月 13 日発表)	百万円 20,000	百万円 840	百万円 710	円 銭 34.49
今回発表実績値 (B)	19,560	330	△1,350	△65.59
増減額 (B-A)	△440	△510	△2,060	—
増減率(%)	△2.2	△60.7	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	19,251	1,130	459	24.00

#### (3) 修正の理由

##### 〈連結〉

年度後半に入り新興国経済の減速や国内の設備投資需要の減少および円高の影響による輸出環境の悪化などにより、売上高は前回予想を下回る見込みです。

利益面につきましては、売上高の減少と円高の進行に伴う為替差損の発生の影響により営業利益、経常利益は前回予想を下回る見込みです。

また、連結子会社である S3C, Inc. ののれんの一括償却を実施したこと、および法人税率引下げに伴う繰延税金資産の減額の影響などにより、当期純利益は前回予想を下回る見込みです。

##### 〈個別〉

国内および海外の需要減少の影響により、売上高は前回予想を下回る見込みです。

利益面につきましては、売上高の減少と円高の進行に伴う為替差損の発生の影響により営業利益、経常利益は前回予想を下回る見込みです。

また、連結子会社である S3C, Inc. について関係会社株式評価損および貸倒引当金繰入額を特別損失として計上したこと、並びに法人税率引下げに伴う繰延税金資産の減額の影響などにより、当期純損失の計上を見込みました。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上